



第1回ベストサービス賞 おめでとう! 三篠会調理部門

第1回ベストサービス賞表彰式及び会食会が、平成17年4月17日(日)正午より、ホテルグランヴィア広島・中国料理「東天紅」にて豪華中国料理に舌鼓をうちつつ、なごやかな雰囲気で行われました。

ベストサービス賞を受賞した三篠会調理部門を代表して、増田管理栄養士さんが、トロフィー、賞状、そして賞金30万円を酒井理事長より受け取りました。三篠会調理部門からは各施設より、栄養士さんまたは調理員さんに1名ずつ参加してもらいました。

グッドサービス賞は2グループ受賞し、あすらや荘特養2階の滝口介護主任代理と重心鈴が峰の平田看護主任が、それぞれ賞金10万円と賞状を受取りました。

後日、惜しくもナイス賞だった10組には賞金1万円と賞状、それと各施設で予選を通過したすべてのチャレンジレポートに参加賞として図書カード千円分を贈らせていただきました。



■ベストサービス賞受賞 喜びのコメント■

私たち栄養士が共同でおせち料理を作ることに取り組んで、今年で4年になります。年々に参加する施設が増え、平成16年度には、正月休みの保育園を除く、三篠会全施設で、調理職員全員の力による”おせちの折詰”を提供することができました。

今回は、きざみ食、ミキサー食の見た目の悪さ、食べにくさをなんとか克服しようと、視覚・味覚・食感(咀嚼、嚥下のしやすさ)にこだわったおせち折詰めを作りたいと、試作・試食を重ねました。

その結果、まだまだ課題はたくさんあることも分かりましたが、この受賞は私たち全調理職員へのエールであることを胸に留め、みんなで知恵を出し合い、利用者の方々に喜んでいただける、食べやすく、おいしい食事を作っていきます。

三篠会調理部代表 ゆたか園 増田管理栄養士



■取り組み内容■

全施設のすべての栄養士・調理員が取り組み、統一献立・食材等の共同購入をしました。味はもちろん、見た目や食感にもこだわり、今まで以上に利用者さんに喜んでいただける”三篠会特製おせち折詰め”を作りました。

←三篠会調理部門の汗と涙の結晶!
左から「普通食」、つづいて「ミキサー食」です。



来年こそ本気で
30万円狙います◎

■グッドサービス賞受賞 喜びのコメント■

この応募した企画は16年7月から特養棟とふれあい棟(短期入所)で、今まで別々の勤務をしていた職員が一緒に働かなければならなくなり、業務改善を行った成果の一部です。短期入所は利用者さんの出入りも激しく、一人ひとりの状況、ニーズ、家族さんからの約束・要望などの把握が難しいことから、試行錯誤の結果、このシステムに決まりました。

まだまだ改善点はありますが、一目で利用者さんの顔とニーズを一致することができ、忘れ物も減り、家族さんとの約束をきちんと守れるようになりました。

今回の賞金で部署専用のパソコンを購入し、若い職員にますますがんばってもらいたいと思っています。来年は30万円を狙います。

特別養護老人ホームあすらや荘2階 滝口介護主任代理

■取り組み内容■

日々入れ替わるショートステイ利用者の顔写真、名前、ADL状況、ご家族との約束事などを記入したA4サイズ用の紙をクリアケースに入れ、介護職員室の壁にかけることにより、職員間での情報の共有化を図った。また、追加事項は水性マーカーでケースの上から書き加える工夫などもおこない、ニーズの変化にも対応できるようにした。



■グッドサービス賞受賞 喜びのコメント■

今回私たち鈴が峰 感染対策委員会はエビデンス(根拠)に基づいたアメリカのC.D.C.ガイドラインを参照に当施設において医療面のコストの検討を行った。いろいろな資料、文献を参照に改善を行うといっても現在行っていることに対して変更するのはなかなか難しく、1例目に取り上げた室内加湿器の中止に関しても「皮膚が乾燥する」などの反対意見があったが、加湿器を置く部屋と置かない部屋をデータを取ったり、加湿することによるデメリットを施設長から家族に説明してもらうなど医師と看護が協力して中止することができた。これも施設長・師長をはじめトップの方のスタッフに対して承認と激励があっただけで実行できたと思われる。

私たちは医療に携わるものとして入所されている方のケアと治療について技術的な関心は日々この施設内で生活される方が少しでも楽しい時間がもてるよう、安心した生活が送れるようお手伝いさせてもらっていると考えている。

今後も鈴が峰重症心身障害児施設の利用者様・家族の方にとって楽しい施設になるようにスタッフ一同協力してゆきたいと思っております。

今回は賞に選んでいただいて本当にありがとうございました。

重症心身障害児施設 鈴が峰 平田看護主任

■取り組み内容■

感染予防を目的に ①カビの胞子・レジオネラ菌の散布する危険性から施設内における加湿器の使用中止 ②自家製万能ツボ入りアルコール綿花を短期間で使用できるパック化の物に変更 ③人工呼吸器における回路交換の定期交換を行わないこと ④気管内吸引チューブを毎回交換・廃棄する 以上4点をコストを意識しながら取り組んだ。

受賞レポート 評価のポイント

■評価ポイント■

今回、介護・看護・調理・保育・事務・施設運営の各分野を代表して、評価委員6名で公正に選考いたしました。評価のポイントは？

◎今までの常識・概念を取り除いて、新しいことにチャレンジしたか？

◎今回のチャレンジが、三篠会の伝統・文化になりうるか？

◎はじめての試みであるか？—業界初、法人初、施設初など—

◎実績はあったか？改善点が目に見える、利用者さんから感謝の声が聞こえた、数値で改善結果があらわせるなど

ベストサービス賞

プロジェクトM ~おせち折詰めができるまで~ 三篠会調理部門

「おせち料理」といえば業者頼みという常識を打ち破り、今回はじめて法人全体の栄養士・調理員が一体となって取り組んだことに敬意を表します。同時に実施するおせち折詰を、各栄養士が作業分担することで作業の軽減と食材等の一括購入によるコストの削減ができた。

さまざまな工夫を重ねることにより、既製の折詰にはないキザミ食・ミキサー食も彩りよく食べやすいものができていました。なによりも利用者さんに手作りの家庭的雰囲気でお正月を迎えていただき、喜んでいただけたことが評価のポイントです。

グッドサービス賞

ショート利用者の状況把握と処遇の統一化を図る あすらや荘 特養2階

介護保険制度のスタート以降、在宅を支える観点から、ショートステイの需要は拡大しています。しかし、職員の勤務体制が複雑な中、いかに利用者の情報を迅速かつ正確に把握するかは、全施設の課題でもある。この課題への取り組みはサービスと安全性の向上の底上げとなったと思います。これを法人全体に浸透し、文化としていければいいと思います。

感染対策におけるCDCが「ドライ」、APICが「ドライ」のEPCに基づいたコストアップ・コストダウン 鈴が峰 重心 医局

全国的に問題となっている課題に、より高いレベルで取り組み、成果を上げられています。実際に有効で、コストのかからない基準に基づいた対策を捜し、実施することは、とてもエネルギーの要る仕事です。忙しい業務の中、ここまで軌道に乗せたことは評価できると思います。今後も最新の情報を取り入れつつ、がんばってください。

ナイス賞

三篠園向上委員会の活動報告 三篠園 己斐聡美

『喜ばれる施設』『選ばれる施設』の視点から『苦情処理』『身体拘束』『研修』の3つの委員会を柱として三篠園向上委員会を立ち上げた活動報告です。評価として、主任・リーダークラスを除いた職員が対象とされているところが職員の全体の質の向上に大いに役に立ち、魅力的な取り組みであったと思います。

マンネリ化した行事を改革する 身体障害者療護施設 白木の郷 中谷勇樹

『今までにやったことのない内食会』を目標に利用者のADL状況をデータ化し、什器などの設備をおこなった結果、利用者には喜ばれる行事として成功した。評価として、身体状態・移動状態が個々に異なった人を対象とし、また食べにくいソーメンを水に流しての試みは本当に大変だったと思うと同時に行動に移すプロセスがとてすばらしかったです。

「洗体を目的としない風呂そのものを楽しむ日」を設ける 鈴が峰 特養2階入浴委員会

『気分を落ち着かせる・リラックスする』という入浴を目的に月に1~2回洗体のみを目的としない入浴そのものを楽しむ日を設けた。評価として、利用者さんが思っている風呂はまさにこの通りだと思えます。施設では身体の清潔に力を入れ、機械的になった風呂になかなか馴染めず風呂への抵抗や風呂嫌いが出てきているのだと思えます。

「おむつ交換」から「排泄ケア」へ 鈴が峰 特養排泄委員会

排泄委員会を立ち上げ、「おむつ交換」という作業的業務から「排泄ケア」とおいう個別ケアへ取り組みを行った。評価として、おむつ外しは理想ではありませんが、これを実行した為、職員が「トイレは…」と常に利用者に訊いたり、パンツやポータブルを持って排泄室に通う姿が見られ、排泄過剰になった光景がみられる施設もあります。こうした事も今後残された課題だと思えます。

休暇・時間外勤務等の届出様式変更 白木の郷 事務所

勤務に関する膨大な数の各種届出物を1ヶ月の提出物を1枚の様式に記載できるようにして、事務処理の簡易化、管理の明瞭化に大きく貢献した。評価として給与計算には毎月の勤務集計が不可欠です。かなりの職員数の勤務実態を集計することは、担当者にとってはとても頭を悩ます仕事です。なんとか簡便にできる方法はないかという試行錯誤されたことと思えました。是非、庶務課として法人全体でさらに工夫をしながら、検討してみたいと思えました。

庶務業務に関する担当制度の導入 三篠園 事務所

事務所の席を担当別に割り振りし、1ヶ月ごとに席替えを実施し、各業務を持ちまわりすることで、業務処理の均一化、チームワークの強化に貢献した。評価として、軽易な業務の取り組みですが、連携しあい、相互に援助している事務所の雰囲気がかかえるような気がしました。これをきっかけに担当業務のローテーションに取り組み、主な担当業務についても、いつでもどの業務でも執務にあたることができるように今後ますますの工夫と努力を大いに期待します。

お茶を使ったケア 甲田 特養診療所

とにかくお茶のカテキン効果を使って、洗浄・清拭することで、利用者の口内の清潔・消臭、褥創や白癬の状態が良くなったなどの成果が出た。評価として、情報として得た知識を実際に試してみても良いことが判り、どんどん幅を拡げて行かれた様子が伝わりました。行動力がとても大切だと思います。期間、病態、MRSA、お茶の作り方、使用期限、温度など詳しく知りたかった。

重心児の安全で安楽な生活の援助 重心鈴が峰 医局

職員手製によるクッション・マット・衣類などの使用により、重症児が安全に過ごせる環境づくりに取り組んだ。評価として、キメ細かい気付きは仲間のカも借りて形になって実用化されています。使い捨ての時代にも、このような堅実な職員がいる施設は、これからも有望ではないでしょうか。

食べやすくおいしいきざみ食を作りたい ひうな荘 坂上順子

きざみ食を『見た目』と『衛生面』から作り方の工程・調理方法を変え、彩りも美しく柔らかいきざみ食を実現した。評価として、普通食ときざみ食を別工程で作ることは非常に労力を要します。にもかかわらず利用者さんの食べる立場に立って業務を考えていることが評価できます。

園児の薬の管理と与薬実施の徹底化 中山いづみ保育園

保護者から依頼された与薬の約束防止のために「ヒヤリハット」「おくすりボックス」「体調チェック表」などなど一連の工程を見直し、再発防止に取り組んだ。評価として、再発防止に向け全職員が取り組み、意識統一がされたことはすばらしいことです。どんな小さな問題でも同じ間違いを2度と繰り返さないという意識を全職員がもち周知することは大切です。

■評価委員長からのコメント■

多数の応募いただき、驚きで一杯です。あらためて、職員のみなさんのパワーを感じました。選考委員からも”どれもすばらしい取り組みで、選考に苦労しました！”との声があがっていました。これからもこの企画を継続していくことで、さらなる質の向上につながると実感しました。残念ながら、選考にもれた方々も、これからのチャレンジに期待しています。がんばってください。

あすらや荘 キャンパス長 土路早敏

■事務局より■

2月の忙しい時期にいきなり、チャレンジレポートを書いてください、という無茶な要望にも関わらず、多くのチャレンジレポートを出していただき、ありがとうございました。無事に選考と表彰式が終わり、ほっとしています。

このベストサービス賞に本気で30万円めざしていた方、いまだにベストサービス賞って何だろう？と思っている方、いろいろいらっしゃると思いますが、実は大切なのはここからなんです。

各施設へチャレンジレポートの冊子を配布しましたが、是非読んでみてください。「うちでも少し工夫すればできるじゃない」とか、「やろうとは思っていたんだけど、よそでは本当にやっているんだ」などなどいろんな感想をもたれると思います。他の施設でやっていることは、自分の施設でもできるはず。そのままは無理としても一部を真似てみる、実際に話しを聴きに行ってみるなどありますが、まずはみなさんの所属部署みなさんで話し合ってみてください。

このベストサービス賞が、三篠会の情報の発信と交流の機会になることを期待します。

推進事務局 野間久司

■次回のおしらせ■

次回のベストサービス賞は、時期を少し早める予定です。7月に”ベストサービス賞研修”を企画中です。福祉QC(職場内の改善)の手法を学ぶ実践的な研修です。その研修時に本年度の企画を発表します。奮ってご参加ください。

チャレンジレポートは12月を締め切りにする予定です。楽しみにおまちください。